



スタック マネージャおよびハイ アベイラ ビリティ

- `debug platform stack-manager` (2 ページ)
- `mode sso` (3 ページ)
- `main-cpu` (4 ページ)
- `policy config-sync prc reload` (5 ページ)
- `mode sso` (6 ページ)
- `policy config-sync prc reload` (7 ページ)
- `redundancy config-sync mismatched-commands` (8 ページ)
- `redundancy` (10 ページ)
- `redundancy force-switchover` (11 ページ)
- `redundancy reload` (12 ページ)
- `reload` (13 ページ)
- `reload` (15 ページ)
- `session` (17 ページ)
- `session` (18 ページ)
- `show platform stack-manager` (19 ページ)
- `show platform stack-manager` (20 ページ)
- `show redundancy config-sync` (21 ページ)
- `show redundancy` (23 ページ)
- `show switch` (27 ページ)
- `show redundancy config-sync` (32 ページ)
- `stack-mac update force` (34 ページ)
- `standby console enable` (36 ページ)
- `switch stack port` (37 ページ)
- `switch priority` (39 ページ)
- `switch provision` (40 ページ)
- `switch renumber` (42 ページ)
- `switch renumber` (44 ページ)

debug platform stack-manager

スタック マネージャ ソフトウェアのデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug platform stack-manager** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform stack-manager {level1|level2|level3|sdp|serviceability|sim|ssm|trace} [{switch
switch-number}]
no debug platform stack-manager {level1|level2|level3|sdp|serviceability|sim|ssm|trace} [{switch
switch-number}]
```

構文の説明

| | |
|---------------------------------------|---|
| level1 | レベル 1 のデバッグ ログをイネーブルにします。 |
| level2 | レベル 2 のデバッグ ログをイネーブルにします。 |
| level3 | レベル 3 のデバッグ ログをイネーブルにします。 |
| sdp | スタック ディスカバリ プロトコル (SDP) のデバッグ メッセージを表示します。 |
| serviceability | スタック マネージャ サービスアビリティのデバッグ メッセージを表示します。 |
| sim | スタック 情報モジュールのデバッグ メッセージを表示します。 |
| ssm | スタック ステートマシンのデバッグ メッセージを表示します。 |
| trace | スタック マネージャの入口と出口のデバッグ メッセージを追跡します。 |
| switch <i>switch-number</i> | (任意) デバッグ オンをイネーブルにするスタック メンバー番号を指定します。指定できる範囲は 1～9 です。 |

コマンド デフォルト デバッグはディセーブルです。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|-----------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドは、スタック対応スイッチのみでサポートされています。

undebug platform stack-manager コマンドは、**no debug platform stack-manager** コマンドと同じです。

mode sso

冗長モードをステートフルスイッチオーバー（SSO）に設定するには、冗長コンフィギュレーションモードで **mode sso** コマンドを使用します。

mode sso

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

冗長コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

mode sso コマンドは、冗長コンフィギュレーションモードでのみ入力できます。

システムを SSO モードに設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- SSO モードをサポートするために、スタック内のスイッチでは同一の Cisco IOS イメージを使用する必要があります。Cisco IOS リリース間の相違のために、冗長機能が動作しない場合があります。
- モジュールの活性挿抜（OIR）を実行する場合、モジュールの状態が移行状態（Ready 以外の状態）である場合にだけ、ステートフルスイッチオーバーの間にスイッチはリセットし、ポートステートは再起動します。
- 転送情報ベース（FIB）テーブルはスイッチオーバー時に消去されます。ルーテッドトラフィックは、ルートテーブルが再コンバージェンスするまで中断されます。

次の例では、冗長モードを SSO に設定する方法を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# mode sso
Device(config-red)#
```

main-cpu

冗長メイン コンフィギュレーション サブモードを開始し、スタンバイ スイッチを有効にするには、冗長コンフィギュレーション モードで **main-cpu** コマンドを使用します。

main-cpu

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

冗長メイン コンフィギュレーション サブモードから、**standby console enable** コマンドを使用してスタンバイ スイッチを有効にします。

次に、冗長メイン コンフィギュレーション サブモードを開始し、スタンバイ スイッチをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device#
```

関連トピック

[standby console enable](#) (36 ページ)

policy config-sync prc reload

Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期中に発生した場合にスタンバイ スイッチをリロードするには、冗長コンフィギュレーションモードで **policy config-sync reload** コマンドを使用します。Parser Return Code (PRC) の障害が発生した場合にスタンバイ スイッチがリロードしないように指定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

policy config-sync {bulk|lbl} prc reload
no policy config-sync {bulk|lbl} prc reload

構文の説明

bulk バルク コンフィギュレーション モードを指定します。

lbl 1行ごと (lbl) のコンフィギュレーションモードを指定します。

コマンドデフォルト

このコマンドは、デフォルトではイネーブルです。

コマンドモード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

次に、Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期化中に発生した場合に、スタンバイ スイッチがリロードされないように指定する例を示します。

```
Device(config-red)# no policy config-sync bulk prc reload
```

mode sso

冗長モードをステートフルスイッチオーバー（SSO）に設定するには、冗長コンフィギュレーションモードで **mode sso** コマンドを使用します。

mode sso

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

冗長コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

mode sso コマンドは、冗長コンフィギュレーションモードでのみ入力できます。

システムを SSO モードに設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- SSO モードをサポートするために、スタック内のスイッチでは同一の Cisco IOS イメージを使用する必要があります。Cisco IOS リリース間の相違のために、冗長機能が動作しない場合があります。
- モジュールの活性挿抜（OIR）を実行する場合、モジュールの状態が移行状態（Ready 以外の状態）である場合にだけ、ステートフルスイッチオーバーの間にスイッチはリセットし、ポートステートは再起動します。
- 転送情報ベース（FIB）テーブルはスイッチオーバー時に消去されます。ルーテッドトラフィックは、ルートテーブルが再コンバージェンスするまで中断されます。

次の例では、冗長モードを SSO に設定する方法を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# mode sso
Device(config-red)#
```

policy config-sync prc reload

Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期中に発生した場合にスタンバイ スイッチをリロードするには、冗長コンフィギュレーション モードで **policy config-sync reload** コマンドを使用します。Parser Return Code (PRC) の障害が発生した場合にスタンバイ スイッチがリロードしないように指定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

policy config-sync {bulk|lbl} prc reload
no policy config-sync {bulk|lbl} prc reload

構文の説明

bulk バルク コンフィギュレーション モードを指定します。

lbl 1行ごと (lbl) のコンフィギュレーションモードを指定します。

コマンド デフォルト

このコマンドは、デフォルトではイネーブルです。

コマンド モード

冗長コンフィギュレーション (config-red)

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

次に、Parser Return Code (PRC) の障害がコンフィギュレーションの同期化中に発生した場合に、スタンバイ スイッチがリロードされないように指定する例を示します。

```
Device(config-red)# no policy config-sync bulk prc reload
```

redundancy config-sync mismatched-commands

アクティブスイッチとスタンバイスイッチの間に設定の不一致があるときにスタンバイスイッチのスタックへの参加を許可するには、特権 EXEC モードで **redundancy config-sync mismatched-commands** コマンドを使用します。

redundancy config-sync {ignore|validate} mismatched-commands

構文の説明

ignore Mismatched Command List を無視します。

validate 修正した実行コンフィギュレーションに基づいて Mismatched Command List を再確認します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

スタンバイスイッチの起動中にアクティブスイッチの実行コンフィギュレーションのコマンド構文チェックが失敗した場合、**redundancy config-sync mismatched-commands** コマンドを使用して、アクティブスイッチの Mismatched Command List (MCL) を表示し、スタンバイスイッチをリブートします。

次に、不一致コマンドのログ エントリの例を示します。

```
00:06:31: Config Sync: Bulk-sync failure due to Servicing Incompatibility. Please check
  full list of mismatched commands via:
show redundancy config-sync failures mcl
00:06:31: Config Sync: Starting lines from MCL file:
interface GigabitEthernet7/7
! <submode> "interface"
- ip address 192.0.2.0 255.255.255.0
! </submode> "interface"
```

すべての不一致コマンドを表示するには、**show redundancy config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順を実行します。

1. アクティブスイッチの実行コンフィギュレーションからすべての不一致コマンドを除外します。
2. **redundancy config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づいて MCL を再確認します。
3. スタンバイスイッチをリロードします。

次の手順に従って、MCL を無視することもできます。

1. **redundancy config-sync ignore mismatched-commands** コマンドを入力します。
2. スタンバイ スイッチをリロードします。システムは SSO モードに移行します。



(注) 不一致コマンドを無視する場合、アクティブ スイッチとスタンバイ スイッチの同期していないコンフィギュレーションは存在したままです。

3. 無視した MCL を **show redundancy config-sync ignored mcl** コマンドで確認します。

コンフィギュレーション ファイルの互換性の問題が原因で、アクティブ スイッチとスタンバイ スイッチ間で SSO モードを確立できない場合、Mismatched Command List (MCL) がアクティブ スイッチで生成され、スタンバイ スイッチに対して Route Processor Redundancy (RPR) モードへのリロードが強制されます。



(注) RPR モードはエラーの場合にフォールバックとして Catalyst 3850 スイッチでサポートされています。これは設定可能ではありません。

障害となっているコンフィギュレーションを削除し、スタンバイ スイッチを同じイメージで再起動した後に SSO の確立を試行する場合、ピア イメージが非互換としてリストされているため、C3K_REDUNDANCY-2-IOS_VERSION_CHECK_FAIL および ISSU-3-PEER_IMAGE_INCOMPATIBLE メッセージが表示されます。ピアが STANDBY COLD (RPR) 状態のときに、**redundancy config-sync ignore mismatched-commands EXEC** コマンドで、非互換リストからピアイメージをクリアできます。このアクションによって、スタンバイ スイッチを、リロード時に STANDBY HOT (SSO) ステートで起動できます。

次の例に、変更したコンフィギュレーションとの Mismatched Command List を再検証する方法を示します。

```
Device# redundancy config-sync validate mismatched-commands  
Device#
```

redundancy

冗長コンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **redundancy** コマンドを使用します。

redundancy

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

冗長コンフィギュレーションモードは、スタンバイ スイッチをイネーブルにするために使用されるメイン CPU サブモードを開始するために使用されます。

メイン CPU サブモードを開始するには、冗長コンフィギュレーションモードで **main-cpu** コマンドを使用します。

スタンバイ スイッチを有効にするには、メイン CPU サブモードから **standby console enable** コマンドを使用します。

冗長コンフィギュレーションモードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

次に、冗長コンフィギュレーションモードを開始する例を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)#
```

次の例では、メイン CPU サブモードを開始する方法を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)#
```

redundancy force-switchover

アクティブ スイッチとスタンバイ スイッチのスイッチオーバーを強制的に実行するには、スイッチ スタックの特権 EXEC モードで **redundancy force-switchover** コマンドを使用します。

redundancy force-switchover

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

手動で冗長スイッチに切り替えるには、**redundancy force-switchover** コマンドを使用します。冗長スイッチは Cisco IOS イメージを実行する新しいアクティブ スイッチになり、モジュールはデフォルト設定にリセットされます。

古いアクティブ スイッチは新しいイメージで再起動し、スタックに参加します。

アクティブ スイッチで **redundancy force-switchover** コマンドを使用すると、アクティブ スイッチのスイッチ ポートがダウン状態になります。

部分リングスタック内のスイッチにこのコマンドを使用すると、次の警告メッセージが表示されます。

```
Device# redundancy force-switchover
Stack is in Half ring setup; Reloading a switch might cause stack split
This will reload the active unit and force switchover to standby[confirm]
```

次の例では、アクティブ スーパーバイザ エンジンからスタンバイ スーパーバイザ エンジンに手動で切り替える方法を示します。

```
Device# redundancy force-switchover
Device#
```

redundancy reload

スタック内のいずれか、またはすべてのスイッチを強制リロードするには、特権 EXEC モードで **redundancy reload** コマンドを使用します。

redundancy reload {peer|shelf}

構文の説明

peer ピア ユニットをリロードします。

shelf スタック内のすべてのスイッチが再起動します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

このコマンドを使用する前に、詳細情報について『*Stacking Configuration Guide (Catalyst 3850 Switches)*』の「Performing a Software Upgrade」の項を参照してください。

スタック内のすべてのスイッチをリブートするには、**redundancy reload shelf** コマンドを使用します。

次に、手動でスタック内のすべてのスイッチをリロードする例を示します。

```
Device# redundancy reload shelf
Device#
```

reload

スタック メンバをリロードし、設定変更を適用するには、特権 EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

reload [**/noverify**]/**verify**] [**LINE**]**at****cancel****in****slot** *stack-member-number***standby-cpu**]

| 構文の説明 | |
|----------------------------|---|
| /noverify | (任意) リロードの前にファイル シグニチャを確認しないように指定します。 |
| /verify | (任意) リロードの前にファイル シグニチャを確認します。 |
| <i>LINE</i> | (任意) リセットの理由。 |
| at | (任意) リロードを実行する時間を hh:mm 形式で指定します。 |
| cancel | (任意) 保留中のリロードをキャンセルします。 |
| in | (任意) リロードを実行する間隔を指定します。 |
| slot | (任意) 指定したスタック メンバーに変更を保存し、再起動します。 |
| <i>stack-member-number</i> | (任意) 変更を保存するスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～9 です。 |
| standby-cpu | (任意) スタンバイルートプロセッサ (RP) をリロードします。 |

コマンド デフォルト スタック メンバをただちにリロードし、設定の変更を有効にします。

コマンド モード 特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン スイッチ スタックに複数のスイッチがある場合に **reload slot stack-member-number** コマンドを入力すると、設定の保存を要求するプロンプトが表示されません。

例

次の例では、スイッチ スタックをリロードする方法を示します。

```
Device# reload
System configuration has been modified. Save? [yes/no]: yes
Reload command is being issued on Active unit, this will reload the whole stack
```

```
Proceed with reload? [confirm] yes
```

次の例では、特定のスタック メンバをリロードする方法を示します。

```
Device# reload slot 6  
Proceed with reload? [confirm] y
```

次の例では、単一スイッチのスイッチ スタック（メンバスイッチが1つだけ）をリロードする方法を示します。

```
Device# reload slot 3  
System configuration has been modified. Save? [yes/no]: y  
Proceed to reload the whole Stack? [confirm] y
```

関連トピック

[show switch](#) (27 ページ)

[switch priority](#) (39 ページ)

[switch renumber](#) (42 ページ)

reload

スタック メンバをリロードし、設定変更を適用するには、特権 EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

reload [*{/noverify/verify}*] [*{LINE|at|cancel|in|slot stack-member-number|standby-cpu}*]

| 構文の説明 | |
|----------------------------|---|
| /noverify | (任意) リロードの前にファイル シグニチャを確認しないように指定します。 |
| /verify | (任意) リロードの前にファイル シグニチャを確認します。 |
| <i>LINE</i> | (任意) リセットの理由。 |
| at | (任意) リロードを実行する時間を hh:mm 形式で指定します。 |
| cancel | (任意) 保留中のリロードをキャンセルします。 |
| in | (任意) リロードを実行する間隔を指定します。 |
| slot | (任意) 指定したスタック メンバーに変更を保存し、再起動します。 |
| <i>stack-member-number</i> | (任意) 変更を保存するスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～9 です。 |
| standby-cpu | (任意) スタンバイルートプロセッサ (RP) をリロードします。 |

コマンドデフォルト スタック メンバをただちにリロードし、設定の変更を有効にします。

コマンドモード 特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン スイッチ スタックに複数のスイッチがある場合に **reload slot stack-member-number** コマンドを入力すると、設定の保存を要求するプロンプトが表示されません。

例

次の例では、スイッチ スタックをリロードする方法を示します。

```
Device# reload
System configuration has been modified. Save? [yes/no]: yes
Reload command is being issued on Active unit, this will reload the whole stack
```

```
Proceed with reload? [confirm] yes
```

次の例では、特定のスタック メンバをリロードする方法を示します。

```
Device# reload slot 6  
Proceed with reload? [confirm] y
```

次の例では、単一スイッチのスイッチ スタック（メンバスイッチが1つだけ）をリロードする方法を示します。

```
Device# reload slot 3  
System configuration has been modified. Save? [yes/no]: y  
Proceed to reload the whole Stack? [confirm] y
```

関連トピック

[show switch](#) (27 ページ)

[switch priority](#) (39 ページ)

[switch renumber](#) (42 ページ)

session

特定のスタック メンバの診断シェルまたはスタンバイ Deviceの Cisco IOS プロンプトにアクセスするには、アクティブ Device上の特権 EXEC モードで **session** コマンドを使用します。

```
session {standby ios|switch [{stack-member-number}]}
```

| | | |
|-----------|----------------------------|---|
| 構文の説明 | standby ios | スタンバイ Deviceの Cisco IOS プロンプトにアクセスします。 (注) このコマンドを使用してスタンバイ Deviceを設定することはできません。 |
| | switch | スタック メンバの診断シェルにアクセスします。 |
| | <i>stack-member-number</i> | (任意) アクティブ スイッチ からアクセスするスタック メンバの番号。範囲は 1 ~ 9 です。 |
| コマンドデフォルト | なし | |
| コマンドモード | 特権 EXEC | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン スタンバイ Deviceで Cisco IOS プロンプトにアクセスした場合、システム プロンプトに `-stby` が付加されます。スタンバイ Deviceを `Device-stby>` プロンプトで設定することはできません。スタック メンバの診断シェルにアクセスした場合、システム プロンプトに `(diag)` が付加されます。

例

次の例では、スタック メンバ 3 にアクセスする方法を示します。

```
Device# session switch 3
Device(diag)>
```

次の例では、スタンバイ Deviceにアクセスする方法を示します。

```
Device# session standby ios
Device-stby>
```

関連トピック

- [reload](#) (13 ページ)
- [show switch](#) (27 ページ)
- [switch priority](#) (39 ページ)
- [switch renumber](#) (42 ページ)

session

特定のスタック メンバの診断シェルまたはスタンバイ Deviceの Cisco IOS プロンプトにアクセスするには、アクティブ Device上の特権 EXEC モードで **session** コマンドを使用します。

session {standby ios|switch [{stack-member-number}]}

| | | |
|------------|----------------------------|---|
| 構文の説明 | standby ios | スタンバイ Deviceの Cisco IOS プロンプトにアクセスします。 (注) このコマンドを使用してスタンバイ Deviceを設定することはできません。 |
| | switch | スタック メンバの診断シェルにアクセスします。 |
| | <i>stack-member-number</i> | (任意) アクティブ スイッチ からアクセスするスタック メンバの番号。範囲は 1 ~ 9 です。 |
| コマンド デフォルト | なし | |
| コマンド モード | 特権 EXEC | |
| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン スタンバイ Deviceで Cisco IOS プロンプトにアクセスした場合、システム プロンプトに `-stby` が付加されます。スタンバイ Deviceを `Device-stby>` プロンプトで設定することはできません。スタック メンバの診断シェルにアクセスした場合、システム プロンプトに `(diag)` が付加されます。

例 次の例では、スタック メンバ 3 にアクセスする方法を示します。

```
Device# session switch 3
Device(diag)>
```

次の例では、スタンバイ Deviceにアクセスする方法を示します。

```
Device# session standby ios
Device-stby>
```

関連トピック

- [reload](#) (13 ページ)
- [show switch](#) (27 ページ)
- [switch priority](#) (39 ページ)
- [switch renumber](#) (42 ページ)

show platform stack-manager

プラットフォーム依存スイッチ スタック情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform stack-manager** コマンドを使用します。

show platform stack-manager {*oir-states*|*sdp-counters*|*sif-counters*} **switch** *stack-member-number*

| 構文の説明 | oir-states | 活性挿抜 (OIR) 状態の情報を表示します。 |
|-------|---|---------------------------------------|
| | sdp-counters | スタック ディスカバリ プロトコル (SDP) カウンタ情報を表示します。 |
| | sif-counters | スタック情報 (SIF) カウンタ情報を表示します。 |
| | switch <i>stack-member-number</i> | スタック マネージャ情報を表示するスタック メンバを指定します。 |

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン スイッチ スタックのデータと統計を収集するには、**show platform stack-manager** コマンドを使用します。

このコマンドは、テクニカルサポート担当者とともに問題解決を行う場合にだけ使用してください。テクニカルサポート担当者がこのコマンドの使用を推奨した場合以外には使用しないでください。

show platform stack-manager

プラットフォーム依存スイッチ スタック情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform stack-manager** コマンドを使用します。

show platform stack-manager {oir-states|sdp-counters|sif-counters} **switch** *stack-member-number*

| 構文の説明 | oir-states | 活性挿抜（OIR）状態の情報を表示します。 |
|-------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| | sdp-counters | スタック ディスカバリ プロトコル（SDP）カウンタ情報を表示します。 |
| | sif-counters | スタック情報（SIF）カウンタ情報を表示します。 |
| | switch <i>stack-member-number</i> | スタック マネージャ情報を表示するスタック メンバを指定します。 |

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン スイッチ スタックのデータと統計を収集するには、**show platform stack-manager** コマンドを使用します。

このコマンドは、テクニカルサポート担当者とともに問題解決を行う場合にだけ使用してください。テクニカルサポート担当者がこのコマンドの使用を推奨した場合以外には使用しないでください。

show redundancy config-sync

コンフィギュレーション同期障害情報または無視された Mismatched Command List (MCL) (存在する場合) を表示するには、EXEC モードで **show redundancy config-sync** コマンドを使用します。

show redundancy config-sync {failures {bem|mcl|prc}|ignored failures mcl}

| 構文の説明 | パラメータ | 説明 |
|-------|-----------------------------|--|
| | failures | MCL エントリまたはベスト エフォート方式 (BEM) /パーサー リターンコード (PRC) の障害を表示します。 |
| | bem | BEM 障害コマンドリストを表示し、スタンバイ スイッチを強制的にリブートします。 |
| | mcl | スイッチの実行コンフィギュレーションに存在するがスタンバイ スイッチのイメージでサポートされていないコマンドを表示し、スタンバイ スイッチを強制的にリブートします。 |
| | prc | PRC 障害コマンドリストを表示し、スタンバイ スイッチを強制的にリブートします。 |
| | ignored failures mcl | 無視された MCL 障害を表示します。 |

コマンドデフォルト なし

コマンドモード ユーザ EXEC
特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン 2つのバージョンの Cisco IOS イメージが含まれている場合は、それぞれのイメージによってサポートされるコマンドセットが異なる可能性があります。このような不一致コマンドのいずれかがアクティブ スイッチで実行された場合、スタンバイ スイッチでそのコマンドを認識できない可能性があり、これにより設定の不一致状態が発生します。バルク同期中にスタンバイ スイッチでコマンドの構文チェックが失敗すると、コマンドは MCL に移動し、スタンバイ スイッチはリセットされます。すべての不一致コマンドを表示するには、**show redundancy config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順を実行します。

1. アクティブ スイッチの実行コンフィギュレーションから、不一致コマンドをすべて削除します。

2. **redundancy config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づいて MCL を再確認します。
3. スタンバイ スイッチをリロードします。

または、次の手順を実行して MCL を無視することもできます。

1. **redundancy config-sync ignore mismatched-commands** コマンドを入力します。
2. スタンバイ スイッチをリロードします。システムは SSO モードに遷移します。



(注) 不一致コマンドを無視する場合、アクティブ スイッチとスタンバイ スイッチの同期していないコンフィギュレーションは存在したままです。

3. 無視した MCL は **show redundancy config-sync ignored mcl** コマンドで確認できます。

各コマンドでは、そのコマンドを実装するアクション機能において戻りコードが設定されます。この戻りコードは、コマンドが正常に実行されたかどうかを示します。アクティブ スイッチは、コマンドの実行後に PRC を維持します。スタンバイ スイッチはコマンドを実行し、アクティブ スイッチに PRC を返します。これら 2 つの PRC が一致しないと、PRC 障害が発生します。バルク同期または 1 行ごとの (LBL) 同期中にスタンバイ スイッチで PRC エラーが生じた場合、スタンバイ スイッチはリセットされます。すべての PRC 障害を表示するには、**show redundancy config-sync failures prc** コマンドを使用します。

ベストエフォート方式 (BEM) エラーを表示するには、**show redundancy config-sync failures bem** コマンドを使用します。

次に、BEM 障害を表示する例を示します。

```
Device> show redundancy config-sync failures bem
BEM Failed Command List
-----

The list is Empty
```

次に、MCL 障害を表示する例を示します。

```
Device> show redundancy config-sync failures mcl
Mismatched Command List
-----

The list is Empty
```

次に、PRC 障害を表示する例を示します。

```
Device# show redundancy config-sync failures prc
PRC Failed Command List
-----

The list is Empty
```

show redundancy

冗長ファシリティ情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show redundancy** コマンドを使用します。

```
show redundancy [{clients|config-sync|counters|history [{reload|reverse}]]slaves[slave-name]
{clients|counters}|states|switchover history [domain default]}
```

構文の説明

| | |
|---------------------------|---|
| clients | (任意) 冗長ファシリティ クライアントに関する情報を表示します。 |
| config-sync | (任意) コンフィギュレーション同期の失敗または無視された Mismatched Command List (MCL) を表示します。詳細については、 show redundancy config-sync (21 ページ) を参照してください。 |
| counters | (任意) 冗長ファシリティ カウンタに関する情報を表示します。 |
| history | (任意) 冗長ファシリティの過去のステータスのログおよび関連情報を表示します。 |
| history reload | (任意) 冗長ファシリティの過去のリロード情報を表示します。 |
| history reverse | (任意) 冗長ファシリティの過去のステータスおよび関連情報のログを逆順で表示します。 |
| slaves | (任意) 冗長ファシリティのすべてのスレーブを表示します。 |
| <i>slave-name</i> | (任意) 特定の情報を表示する冗長ファシリティ スレーブの名前。指定スレーブのすべてのクライアントまたはカウンタを表示するには、追加でキーワードを入力します。 |
| clients | 指定スレーブのすべての冗長ファシリティ クライアントを表示します。 |
| counters | 指定スレーブのすべてのカウンタを表示します。 |
| states | (任意) 冗長ファシリティの状態 (ディセーブル、初期化、スタンバイ、アクティブなど) に関する情報を表示します。 |
| switchover history | (任意) 冗長ファシリティのスイッチオーバー履歴に関する情報を表示します。 |
| domain default | (任意) スイッチオーバー履歴を表示するドメインとしてデフォルトドメインを表示します。 |

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC (#)

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

次の例では、冗長ファシリティに関する情報を表示する方法を示します。

```
Device# show redundancy
Redundant System Information :
-----
      Available system uptime = 6 days, 9 hours, 23 minutes
Switchovers system experienced = 0
      Standby failures = 0
      Last switchover reason = not known

      Hardware Mode = Simplex
Configured Redundancy Mode = SSO
      Operating Redundancy Mode = SSO
      Maintenance Mode = Disabled
      Communications = Down          Reason: Simplex mode

Current Processor Information :
-----
      Active Location = slot 1
      Current Software state = ACTIVE
      Uptime in current state = 6 days, 9 hours, 23 minutes
      Image Version = Cisco IOS Software, IOS-XE Software, Catalyst 3
850 L3 Switch Software (CAT3850-UNIVERSALK9-M), Version 03.08.59.EMD EARLY DEPLO
YMENT ENGINEERING NOVA_WEEKLY BUILD, synced to DSGS_PI2_POSTPC_FLO_DSBU7_NG3K_11
05
Copyright (c) 1986-2012 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Sun 16-S
      Configuration register = 0x102

Peer (slot: 0) information is not available because it is in 'DISABLED' state
Device#
```

次の例では、冗長ファシリティ クライアント情報を表示する方法を示します。

```
Device# show redundancy clients
Group ID = 1
  clientID = 20002   clientSeq = 4   EICORE HA Client
  clientID = 24100   clientSeq = 5   WCM_CAPWAP
  clientID = 24101   clientSeq = 6   WCM_RRM HA
  clientID = 24103   clientSeq = 8   WCM_QOS HA
  clientID = 24105   clientSeq = 10  WCM_MOBILITY
  clientID = 24106   clientSeq = 11  WCM_DOT1X
  clientID = 24107   clientSeq = 12  WCM_APFROGUE
  clientID = 24110   clientSeq = 15  WCM_CIDS
  clientID = 24111   clientSeq = 16  WCM_NETFLOW
  clientID = 24112   clientSeq = 17  WCM_MCAST
  clientID = 24120   clientSeq = 18  wcm_comet
  clientID = 24001   clientSeq = 21  Table Manager Client
  clientID = 20010   clientSeq = 24  SNMP SA HA Client
  clientID = 20007   clientSeq = 27  Installer HA Client
  clientID = 29      clientSeq = 60  Redundancy Mode RF
  clientID = 139     clientSeq = 61  IfIndex
  clientID = 3300    clientSeq = 62  Persistent Variable
  clientID = 25      clientSeq = 68  CHKPT RF
  clientID = 20005   clientSeq = 74  IIF-shim
  clientID = 10001   clientSeq = 82  QEMU Platform RF
```


<output truncated>

出力には、次の情報が表示されます。

- **clientID** には、クライアントの ID 番号が表示されます。
- **clientSeq** には、クライアントの通知シーケンス番号が表示されます。
- 現在の冗長ファシリティ ステート。

次の例では、冗長ファシリティ カウンタ情報を表示する方法を示します。

Device# **show redundancy counters**

```
Redundancy Facility OMs

      comm link up = 0
      comm link down = 0
      invalid client tx = 0
      null tx by client = 0
      tx failures = 0
      tx msg length invalid = 0

      client not rxing msgs = 0
      rx peer msg routing errors = 0
      null peer msg rx = 0
      errored peer msg rx = 0

      buffers tx = 0
      tx buffers unavailable = 0
      buffers rx = 0
      buffer release errors = 0

      duplicate client registers = 0
      failed to register client = 0
      Invalid client syncs = 0
```

Device#

次の例では、冗長ファシリティ履歴情報を表示する方法を示します。

Device# **show redundancy history**

```
00:00:00 *my state = INITIALIZATION(2) peer state = DISABLED(1)
00:00:00 RF_EVENT_INITIALIZATION(524) op=0 rc=0
00:00:00 *my state = NEGOTIATION(3) peer state = DISABLED(1)
00:00:01 client added: Table Manager Client(24001) seq=21
00:00:01 client added: SNMP SA HA Client(20010) seq=24
00:00:06 client added: WCM_CAPWAP(24100) seq=5
00:00:06 client added: WCM_QOS HA(24103) seq=8
00:00:07 client added: WCM_DOT1X(24106) seq=11
00:00:07 client added: EICORE HA Client(20002) seq=4
00:00:09 client added: WCM_MOBILITY(24105) seq=10
00:00:09 client added: WCM_NETFLOW(24111) seq=16
00:00:09 client added: WCM_APFROGUE(24107) seq=12
00:00:09 client added: WCM_RRM HA(24101) seq=6
00:00:09 client added: WCM_MCAST(24112) seq=17
00:00:09 client added: WCM_CIDS(24110) seq=15
00:00:09 client added: wcm_comet(24120) seq=18
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) First Slave(0) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(6107) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(6109) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(6128) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(8897) op=0 rc=0
```

show redundancy

```
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(8898) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Slave(8901) op=0 rc=0
00:00:22 RF_EVENT_SLAVE_STATUS_DONE(523) First Slave(0) op=405 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) Redundancy Mode RF(29) op=0 rc=0
00:00:22 RF_STATUS_REDUNDANCY_MODE_CHANGE(405) IfIndex(139) op=0 rc=0
```

<output truncated>

次の例では、冗長ファシリティ スレーブに関する情報を表示する方法を示します。

```
Device# show redundancy slaves
Group ID = 1
Slave/Process ID = 6107 Slave Name = [installer]
Slave/Process ID = 6109 Slave Name = [eicored]
Slave/Process ID = 6128 Slave Name = [snmp_subagent]
Slave/Process ID = 8897 Slave Name = [wcm]
Slave/Process ID = 8898 Slave Name = [table_mgr]
Slave/Process ID = 8901 Slave Name = [iosd]
```

Device#

次の例では、冗長ファシリティ ステートに関する情報を表示する方法を示します。

```
Device# show redundancy states
my state = 13 -ACTIVE
peer state = 1 -DISABLED
Mode = Simplex
Unit ID = 1

Redundancy Mode (Operational) = SSO
Redundancy Mode (Configured) = SSO
Redundancy State = Non Redundant
Manual Swact = disabled (system is simplex (no peer unit))

Communications = Down Reason: Simplex mode

client count = 75
client_notification_TMR = 360000 milliseconds
keep_alive TMR = 9000 milliseconds
keep_alive count = 0
keep_alive threshold = 18
RF debug mask = 0
```

Device#

show switch

スタック メンバまたはスイッチ スタックに関連した情報を表示するには、**show switch** コマンドを EXEC モードで使用します。

show switch [{*stack-member-number*|**detail**|**neighbors**|**stack-ports** [{**summary**}]]

| | | |
|-------|----------------------------|---|
| 構文の説明 | <i>stack-member-number</i> | (任意) スタック メンバ数。指定できる範囲は 1 ～ 9 です。 |
| | detail | (任意) スタック リングの詳細情報を表示します。 |
| | neighbors | (任意) スイッチ スタック全体のネイバーを表示します。 |
| | stack-ports | (任意) スイッチ スタック全体のポート情報を表示します。 |
| | summary | (任意) スタック ケーブルの長さ、スタック リングのステータス、およびループバックのステータスを表示します。 |

コマンド デフォルト なし

コマンド モード ユーザ EXEC
特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン このコマンドでは、次のステートが表示されます。

- **Initializing** : スイッチはスタックに追加されたばかりで、**ready** 状態になるための基本的な初期化が完了していません。
- **HA Sync in Progress** : スタンバイが選出されると、同期が終了するまで対応するスイッチはこの状態のままになります。
- **Syncing** : 既存のスタックに追加されたスイッチは、スイッチ追加シーケンスが完了するまでこの状態のままになります。
- **Ready** : メンバがシステム レベルおよびインターフェイス レベルの設定のロードを完了し、トラフィックを転送できるようになっています。

- **V-Mismatch** : Version-Mismatch モードのスイッチ。Version-Mismatch モードは、スタックに参加したスイッチのソフトウェアバージョンがアクティブ スイッチと非互換である場合です。
- **Provisioned** : スイッチ スタックのアクティブ メンバになる前にすでに設定されていたスイッチの状態です。プロビジョニングされたスイッチでは、MAC アドレスおよびプライオリティ番号は、常に 0 と表示されます。
- **Unprovisioned** : プロビジョニングされたスイッチ番号が **no switch switch-number provision** コマンドを使用してプロビジョニング解除された場合の状態です。
- **Removed** : スタックに存在していたスイッチが、**reload slot** コマンドを使用して除外された場合です。
- **Sync not started** : 複数のスイッチが既存のスタックに同時に追加された場合、アクティブ スイッチが 1 台ずつ追加します。追加中のスイッチは **Syncing** 状態になります。まだ追加されていないスイッチは **Sync not started** 状態になります。
- **Lic-Mismatch** : スイッチのライセンス レベルがアクティブ スイッチと異なります。

スタック メンバ (アクティブ スイッチを含む) の代表的なステート遷移は、Waiting>Initializing >Ready です。

Version Mismatch (VM) モードのスタック メンバの代表的なステート遷移は、Waiting > Ver Mismatch です。

スイッチ スタックにプロビジョニングされたスイッチが存在するかどうかを識別するには、**show switch** コマンドを使用できます。**show running-config** および **show startup-config** 特権 EXEC コマンドでは、この情報は提供されません。

永続的 MAC アドレスがイネーブルになっている場合、スタックの MAC-persistence wait-time も表示されます。

例

次に、スタック情報の概要を表示する例を示します。

```
Device# show switch
Switch/Stack Mac Address : 6400.f124.e900
```

| Switch# | Role | Mac Address | Priority | H/W Version | Current State |
|---------|--------|----------------|----------|-------------|---------------|
| 1 | Member | 0000.0000.0000 | 0 | 0 | Provisioned |
| 2 | Member | 0000.0000.0000 | 0 | 0 | Removed |
| *3 | Active | 6400.f124.e900 | 2 | 0 | Ready |
| 8 | Member | 0000.0000.0000 | 0 | 0 | Unprovisioned |

次に、スタック情報の詳細を表示する例を示します。

```
Device# show switch detail
Switch/Stack Mac Address : 2037.06ce.3f80 - Local Mac Address
Mac persistency wait time: Indefinite
```

| Switch# | Role | Mac Address | Priority | H/W Version | Current State |
|---------|--------|----------------|----------|-------------|---------------|
| *1 | Active | 2037.06ce.3f80 | 1 | 0 | Ready |
| 2 | Member | 0000.000.0000 | 0 | 0 | Provisioned |

```

6      Member 2037.06ce.1e00      1      0      Ready

      Stack Port Status              Neighbors
Switch#  Port 1    Port 2              Port 1    Port 2
-----
1        Ok      Down              6        None
6        Down    Ok                None     1
    
```

次に、メンバ 6 の要約情報を表示する例を示します。

```

Device# show switch 6
Switch#  Role      Mac Address      Priority    State
-----
6        Member    0003.e31a.1e00  1          Ready
    
```

次に、スタックに関するネイバー情報を表示する例を示します。

```

Device# show switch neighbors
Switch #  Port A      Port B
-----
6         None     8
8         6       None
    
```

次に、スタック ポート情報を表示する例を示します。

```

Device# show switch stack-ports
Switch #  Port A      Port B
-----
6         Down     Ok
8         Ok      Down
    
```

次に、**show switch stack-ports summary** コマンドの出力例を示します。次の表に、この出力で表示されるフィールドについて説明します。

```

Device# show switch stack-ports summary
Switch#/  Stack  Neighbor  Cable  Link  Link  Sync  #  In
Port#     Port   Status    Length OK   Active OK   Changes  Loopback
              Status              To LinkOK
-----
1/1       Down   2         50 cm  No   NO   No   10   No
1/2       Ok     3         1 m    Yes  Yes  Yes  0    No
2/1       Ok     5         3 m    Yes  Yes  Yes  0    No
2/2       Down   1         50 cm  No   No   No   10   No
3/1       Ok     1         1 m    Yes  Yes  Yes  0    No
3/2       Ok     5         1 m    Yes  Yes  Yes  0    No
5/1       Ok     3         1 m    Yes  Yes  Yes  0    No
5/2       Ok     2         3 m    Yes  Yes  Yes  0    No
    
```

表 1: show switch stack-ports summary コマンドの出力

| フィールド | 説明 |
|---------------|----------------------|
| Switch#/Port# | メンバー番号と、そのスタック ポート番号 |

| フィールド | 説明 |
|---------------------|---|
| Stack Port Status | <p>スタック ポートのステータス。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Absent : スタック ポートにケーブルが検出されません。 • Down : ケーブルは検出されましたが、接続されたネイバーがアップになっていないか、スタックポートがディセーブルになっています。 • OK : ケーブルが検出され、接続済みのネイバーが起動しています。 |
| Neighbor | スタック ケーブルの接続先の、アクティブなメンバーのスイッチの数。 |
| Cable Length | <p>有効な長さは 50 cm、1 m、または 3 m です。</p> <p>スイッチがケーブルの長さを検出できない場合は、値は <i>no cable</i> になります。ケーブルが接続されていないか、リンクが信頼できない可能性があります。</p> |
| Link OK | <p>スタックケーブルが接続され機能しているかどうか。相手側には、接続されたネイバーが存在する場合も、そうでない場合もあります。</p> <p>リンクパートナーは、ネイバースイッチ上のスタックポートのことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No : このポートに接続されているスタックケーブルがないか、スタックケーブルが機能していません。 • Yes : このポートには正常に機能するスタックケーブルが接続されています。 |
| Link Active | <p>スタック ケーブル相手側にネイバーが接続されているかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No : 相手側にネイバーが検出されません。ポートは、このリンクからトラフィックを送信できません。 • Yes : 相手側にネイバーが検出されました。ポートは、このリンクからトラフィックを送信できます。 |
| Sync OK | <p>リンクパートナーが、スタック ポートに有効なプロトコルメッセージを送信するかどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No : リンクパートナーからスタックポートに有効なプロトコルメッセージが送信されません。 • Yes : リンクの相手側は、ポートに有効なプロトコルメッセージを送信します。 |
| # Changes to LinkOK | <p>リンクの相対的安定性。</p> <p>短期間で多数の変更が行われた場合は、リンクのフラップが発生することがあります。</p> |

| フィールド | 説明 |
|-------------|--|
| In Loopback | スタック ケーブルがメンバのスタック ポートに接続されているかどうか。 <ul style="list-style-type: none">• No : メンバ上の少なくとも1つのスタック ポートに接続済みのスタック ケーブルがあります。• Yes : メンバーのどのスタック ポートにも、スタック ケーブルが接続されていません。 |

関連トピック

[reload](#) (13 ページ)

[session](#) (17 ページ)

[stack-mac update force](#) (34 ページ)

[switch priority](#) (39 ページ)

[switch provision](#) (40 ページ)

[switch renumber](#) (42 ページ)

show redundancy config-sync

コンフィギュレーション同期障害情報または無視された Mismatched Command List (MCL) (存在する場合) を表示するには、EXEC モードで **show redundancy config-sync** コマンドを使用します。

show redundancy config-sync {failures {bem|mcl|prc}|ignored failures mcl}

| 構文の説明 | failures | MCL エントリまたはベスト エフォート方式 (BEM) /パーサー リターンコード (PRC) の障害を表示します。 |
|-------|-----------------------------|--|
| | bem | BEM 障害コマンドリストを表示し、スタンバイ スイッチを強制的にリブートします。 |
| | mcl | スイッチの実行コンフィギュレーションに存在するがスタンバイ スイッチのイメージでサポートされていないコマンドを表示し、スタンバイ スイッチを強制的にリブートします。 |
| | prc | PRC 障害コマンドリストを表示し、スタンバイ スイッチを強制的にリブートします。 |
| | ignored failures mcl | 無視された MCL 障害を表示します。 |

コマンド デフォルト なし

コマンド モード ユーザ EXEC
特権 EXEC

| コマンド履歴 | リリース | 変更内容 |
|--------|--------------------|-----------------|
| | Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン 2つのバージョンの Cisco IOS イメージが含まれている場合は、それぞれのイメージによってサポートされるコマンドセットが異なる可能性があります。このような不一致コマンドのいずれかがアクティブ スイッチで実行された場合、スタンバイ スイッチでそのコマンドを認識できない可能性があり、これにより設定の不一致状態が発生します。バルク同期中にスタンバイ スイッチでコマンドの構文チェックが失敗すると、コマンドは MCL に移動し、スタンバイ スイッチはリセットされます。すべての不一致コマンドを表示するには、**show redundancy config-sync failures mcl** コマンドを使用します。

MCL を消去するには、次の手順を実行します。

1. アクティブ スイッチの実行コンフィギュレーションから、不一致コマンドをすべて削除します。

2. **redundancy config-sync validate mismatched-commands** コマンドを使用して、修正した実行コンフィギュレーションに基づいて MCL を再確認します。
3. スタンバイ スイッチをリロードします。

または、次の手順を実行して MCL を無視することもできます。

1. **redundancy config-sync ignore mismatched-commands** コマンドを入力します。
2. スタンバイ スイッチをリロードします。システムは SSO モードに遷移します。



(注) 不一致コマンドを無視する場合、アクティブ スイッチとスタンバイ スイッチの同期していないコンフィギュレーションは存在したままです。

3. 無視した MCL は **show redundancy config-sync ignored mcl** コマンドで確認できます。

各コマンドでは、そのコマンドを実装するアクション機能において戻りコードが設定されます。この戻りコードは、コマンドが正常に実行されたかどうかを示します。アクティブ スイッチは、コマンドの実行後に PRC を維持します。スタンバイ スイッチはコマンドを実行し、アクティブ スイッチに PRC を返します。これら 2 つの PRC が一致しないと、PRC 障害が発生します。バルク同期または 1 行ごとの (LBL) 同期中にスタンバイ スイッチで PRC エラーが生じた場合、スタンバイ スイッチはリセットされます。すべての PRC 障害を表示するには、**show redundancy config-sync failures prc** コマンドを使用します。

ベスト エフォート方式 (BEM) エラーを表示するには、**show redundancy config-sync failures bem** コマンドを使用します。

次に、BEM 障害を表示する例を示します。

```
Device> show redundancy config-sync failures bem
BEM Failed Command List
-----

The list is Empty
```

次に、MCL 障害を表示する例を示します。

```
Device> show redundancy config-sync failures mcl
Mismatched Command List
-----

The list is Empty
```

次に、PRC 障害を表示する例を示します。

```
Device# show redundancy config-sync failures prc
PRC Failed Command List
-----

The list is Empty
```

stack-mac update force

スタック MAC アドレスをアクティブ スイッチの MAC アドレスに更新するには、アクティブ スイッチの EXEC モードで **stack-mac update force** コマンドを使用します。

stack-mac update force

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

デフォルトでは、ハイ アベイラビリティ (HA) フェールオーバー時に、スタックの MAC アドレスは新しいアクティブ スイッチの MAC アドレスに変更されません。スタック MAC アドレスが新しいアクティブ スイッチの MAC アドレスに強制的に変更されるようにするには、**stack-mac update force** コマンドを使用します。

スタック MAC アドレスと同じ MAC アドレスを持つスイッチが現在そのスタックのメンバーである場合、**stack-mac update force** コマンドは無効です。(スタック MAC アドレスはアクティブ スイッチの MAC アドレスに更新されません)



- (注) スタック MAC アドレスを変更しない場合、レイヤ 3 インターフェイスのフラップが発生しません。これは、未知の MAC アドレス (スタック内のスイッチに属さない MAC アドレス) がスタック MAC アドレスになる可能性があることを意味します。この未知の MAC アドレスを持つスイッチが別のスタックにアクティブ スイッチとして参加すると、2つのスタックが同じスタック MAC アドレスを持つこととなります。**stack-mac update force** コマンドを使用して、この競合を解決する必要があります。

次に、スタック MAC アドレスをアクティブ スイッチの MAC アドレスに更新する例を示します。

```
Device> stack-mac update force
Device>
```

設定を確認するには、**show switch** 特権 EXEC コマンドを入力します。スタック MAC アドレスには、MAC アドレスがローカルと未知のどちらであるかも含まれます。

関連トピック

[show switch](#) (27 ページ)

[stack-mac persistent timer](#)

standby console enable

スタンバイ コンソールスイッチへのアクセスを有効にするには、冗長メインコンフィギュレーションサブモードで **standby console enable** コマンドを使用します。スタンバイ コンソールスイッチへのアクセスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

standby console enable
no standby console enable

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

スタンバイ スイッチ コンソールへのアクセスはディセーブルです。

コマンド モード

冗長メイン コンフィギュレーション サブモード

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

このコマンドは、スタンバイ コンソールに関する特定のデータを収集し、確認するために使用されます。コマンドは、主にシスコのテクニカル サポート担当がスイッチのトラブルシューティングを行うのに役立ちます。

次に、冗長メインコンフィギュレーションサブモードを開始し、スタンバイ コンソールスイッチへのアクセスをイネーブルにする例を示します。

```
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device(config-r-mc)#
```

関連トピック

[main-cpu](#) (4 ページ)

switch stack port

メンバの指定されたスタック ポートをディセーブルまたはイネーブルにするには、スタックメンバの特権 EXEC モードで **switch** コマンドを使用します。

switch stack-member-number stack port port-number {disable|enable}

構文の説明

stack-member-number 現在のスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～9 です。

stackport port-number メンバ上のスタック ポートを指定します。指定できる範囲は 1～2 です。

disable 指定したポートをディセーブルにします。

enable 指定されたポートをイネーブルにします。

コマンドデフォルト

スタック ポートはイネーブルです。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

スタックが full-ring 状態になるのは、すべてのスタック メンバがスタック ポートを使用して接続され、ready 状態になっている場合です。

スタックが partial-ring 状態になるのは、次が発生したときです。

- すべてのメンバがスタック ポートを通じて接続されたが、一部が ready ステートではない。
- スタック ポートを通じて接続されていないメンバーがある。



(注) **switch stack-member-numberstackport port-numberdisable** コマンドを使用するときは注意してください。スタック ポートをディセーブルにすると、スタックは半分の帯域幅で稼働します。

switch stack-member-numberstackport port-numberdisable 特権 EXEC コマンドを入力し、スタックが full-ring 状態にある場合、ディセーブルにできるスタック ポートは 1 つだけです。次のメッセージが表示されます。

Enabling/disabling a stack port may cause undesired stack changes. Continue?[confirm]

switch stack-member-number stack port port-number disable 特権 EXEC コマンドを入力し、スタックが partial-ring 状態にある場合、ポートはディセーブルにできません。次のメッセージが表示されます。

```
Disabling stack port not allowed with current stack configuration.
```

例

次に、member 4 上の stack port 2 をディセーブルにする方法の例を示します。

```
Device# switch 4 stack port 2 disable
```

関連トピック

[show switch](#) (27 ページ)

switch priority

スタック メンバーのプライオリティ値を変更するには、アクティブ スイッチの EXEC モードで **switch priority** コマンドを使用します。

switch *stack-member-number* **priority** *new-priority-value*

構文の説明

stack-member-number 現在のスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～9 です。

new-priority-value スタック メンバの新しいプライオリティ値指定できる範囲は 1～15 です。

コマンド デフォルト

デフォルトのプライオリティ値は 1 です。

コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

新しいプライオリティ値は、新しいアクティブ スイッチ 選定の要素になります。プライオリティ値を変更しても、アクティブ スイッチ がただちに變更されることはありません。

例

次の例では、スタック メンバ 6 のプライオリティ値を 8 に変更する方法を示します。

```
Device# switch 6 priority 8
Changing the Switch Priority of Switch Number 6 to 8
Do you want to continue?[confirm]
```

関連トピック

- [reload](#) (13 ページ)
- [session](#) (17 ページ)
- [show switch](#) (27 ページ)
- [switch renumber](#) (42 ページ)

switch provision

新しいスイッチがスイッチ スタックに追加される前に構成設定するには、アクティブ スイッチのグローバル コンフィギュレーションモードで **switch provision** コマンドを使用します。除外されたスイッチ（スタックを離れたスタック メンバ）に対応するすべての設定情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switch stack-member-number provision type
no switch stack-member-number provision

構文の説明

stack-member-number スタック メンバの番号です。指定できる範囲は 1～9 です。

type 新しいスイッチがスタックに加入する前の、このスイッチのタイプ。

コマンド デフォルト

スイッチは、プロビジョニングされていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

type には、コマンドライン ヘルプ スtringに示されたサポート対象のスイッチのモデル番号を入力します。

エラー メッセージを受信しないようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用してプロビジョニングされた設定を削除する前に、スイッチスタックから指定のスイッチを削除する必要があります。

スイッチ タイプを変更する場合も、スイッチスタックから指定のスイッチを削除する必要があります。スイッチ タイプを変更しない場合でも、スイッチスタック内に物理的に存在するプロビジョニングされたスイッチのスタック メンバ番号を変更できます。

プロビジョニングされたスイッチのタイプが、スタック上のプロビジョニングされた設定のスイッチタイプと一致しない場合、スイッチスタックはプロビジョニングされたスイッチにデフォルト設定を適用し、これをスタックに追加します。スイッチスタックでは、デフォルト設定を適用する場合にメッセージを表示します。

プロビジョニング情報は、スイッチスタックの実行コンフィギュレーションで表示されます。**copy running-config startup-config** 特権 EXEC コマンドを入力すると、プロビジョニングされた設定がスイッチスタックのスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存されません。



注意 **switch provision** コマンドを使用すると、プロビジョニングされた設定にメモリが割り当てられます。新しいスイッチタイプが設定されたときに、以前割り当てられたメモリのすべてが解放されるわけではありません。そのため、このコマンドをおおよそ200回を超えて使用しないようにしてください。スイッチのメモリが不足し、予期せぬ動作が発生する可能性があります。

例

次に、スタック メンバー番号2が設定されたスイッチをスイッチスタックに割り当てる例を示します。**show running-config** コマンドの出力は、プロビジョニングされたスイッチに関連付けられたインターフェイスを示します。

```
Device(config)# switch 2 provision WS-xxxx
Device(config)# end
Device# show running-config | include switch 2
!
interface GigabitEthernet2/0/1
!
interface GigabitEthernet2/0/2
!
interface GigabitEthernet2/0/3
<output truncated>
```

また、**show switch** ユーザ EXEC コマンドを入力すると、スイッチスタックのプロビジョニングされたステータスを表示できます。

次の例では、スイッチがスタックから削除される場合に、スタック メンバ5についてのすべての設定情報が削除される方法を示します。

```
Device(config)# no switch 5 provision
```

プロビジョニングされたスイッチが、実行コンフィギュレーションで追加または削除されたことを確認するには、**show running-config** 特権 EXEC コマンドを入力します。

関連トピック

[show switch](#) (27 ページ)

switch renumber

スタック メンバ番号を変更するには、**switch renumber** コマンドを アクティブ スイッチ の EXEC モードで使用します。

switch *current-stack-member-number* **renumber** *new-stack-member-number*

構文の説明

current-stack-member-number 現在のスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～9 です。

new-stack-member-number スタック メンバの新しいスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～9 です。

コマンド デフォルト

デフォルトのスタック メンバ番号は 1 です。

コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

指定したメンバ番号をすでに他のスタック メンバが使用している場合、スタック メンバをリロードする際に アクティブ スイッチ は使用可能な一番低い番号を割り当てます。



(注) スタック メンバ番号を変更し、新しいスタック メンバ番号がどの設定にも関連付けされていない場合、そのスタック メンバは現在の設定を廃棄してリセットを行い、デフォルトの設定に戻ります。

プロビジョニングされたスイッチでは、**switch** *current-stack-member-number***renumber** *new-stack-member-number* コマンドを使用しないでください。使用すると、コマンドは拒否されます。

スタック メンバをリロードし、設定変更を適用するには、**reload slot current stack member number** 特権 EXEC コマンドを使用します。

例

次の例では、スタック メンバ 6 のメンバ番号を 7 に変更する方法を示しています。

```
Device# switch 6 renumber 7
WARNING: Changing the switch number may result in a configuration change for that switch.
The interface configuration associated with the old switch number will remain as a
provisioned configuration.
Do you want to continue?[confirm]
```

関連トピック

- [reload](#) (13 ページ)
- [session](#) (17 ページ)
- [show switch](#) (27 ページ)
- [switch priority](#) (39 ページ)

switch renumber

スタック メンバ番号を変更するには、**switch renumber** コマンドを アクティブ スイッチ の EXEC モードで使用します。

switch *current-stack-member-number* **renumber** *new-stack-member-number*

構文の説明

current-stack-member-number 現在のスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～9 です。

new-stack-member-number スタック メンバの新しいスタック メンバ番号。指定できる範囲は 1～9 です。

コマンド デフォルト

デフォルトのスタック メンバ番号は 1 です。

コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

| リリース | 変更内容 |
|--------------------|-----------------|
| Cisco IOS XE 3.2SE | このコマンドが導入されました。 |

使用上のガイドライン

指定したメンバ番号をすでに他のスタック メンバが使用している場合、スタック メンバをリロードする際に アクティブ スイッチ は使用可能な一番低い番号を割り当てます。



(注) スタック メンバ番号を変更し、新しいスタック メンバ番号がどの設定にも関連付けされていない場合、そのスタック メンバは現在の設定を廃棄してリセットを行い、デフォルトの設定に戻ります。

プロビジョニングされたスイッチでは、**switch** *current-stack-member-number***renumber** *new-stack-member-number* コマンドを使用しないでください。使用すると、コマンドは拒否されます。

スタック メンバをリロードし、設定変更を適用するには、**reload slot current stack member number** 特権 EXEC コマンドを使用します。

例

次の例では、スタック メンバ 6 のメンバ番号を 7 に変更する方法を示しています。

```
Device# switch 6 renumber 7
WARNING: Changing the switch number may result in a configuration change for that switch.
The interface configuration associated with the old switch number will remain as a
provisioned configuration.
Do you want to continue?[confirm]
```

関連トピック

- [reload](#) (13 ページ)
- [session](#) (17 ページ)
- [show switch](#) (27 ページ)
- [switch priority](#) (39 ページ)

